

地方新世紀

第2部 リーダー像

④

「ソーリ、ソーリ、ソーリ…」

気づくと、続けざまに十二回も「総理」と叫んでいた。

昨年夏の衆院予算委員会。民主党政審会長の辻元清美さん

（こ）は、集団的自衛権について小泉純一郎首相に質問した。

中谷元防衛庁長官が代わりに答弁に立ち上ったその時、思わず「ソーリ…」が口をついて

出た。

「極めて大事な問題だし、質問時間も残り少なかった。どうしても総理自身の回答が必要だった。あの場面では引くわけに

いかなかった」

その瞬間、テレビの視聴率は、国会中継としては過去最高の13・1%を記録していた。歯に衣

着せぬ舌ぼと、飾らない大阪弁で知られる辻元さんの面目躍

辻元 清美さん

衆院議員



如だった。

「ほんまのときどきないやねん、教えてくれ」って本音で聞きたい。官僚の作文は読みたくない」と、言葉の持つ力と重み

禁止法を成立させた。いずれも議員立法だったが、「市民団体のメンバーと何百時間も議論して法文を作った『市民立法』や」と話す。

活動の原点は、早稲田大学在学中の一九八三年に設立した民間国際交流団体「ピースポート」にさかのぼる。これまでに延べ二万人以上の若者を組織し、地球五周分六十カ国以上を訪れた。



全国の超党派の地方議員ら約80人で設立した、環境保護活動に取り組むNPO法人「国境なき環境協働ネットワーク」も、新しい議員像を求める動きの一つか（昨年10月23日、京都市内のホテル）

「市民」を原点に変革

を信じている。

初当選から五年。自分の言葉（OP3）を機に、京都のNPO

とか「NPO選出議員」と呼ば

る。民生生活の問題を国政レベルで政策提言できる専門知識が求められていた。利益誘導型から地域型へ政治のかたちが変化してい

生活支援法、児童買春・ポルノする政治手法から、「市民派」とを実感した。NPOやNGOとを分析し、辻元さんを、そ

（非政府組のさきがけと位置付ける。

織）なら、加えて、「市民と議会のつな

業界団体にぎ役として、党利党略ではなく

縛られずに党派を結ぶ役割を果たしてほし

自由に発言い」と注文を付ける。

できる。も昨年、「明日の世界のリーダ

つと政策提一百人に選ばれた辻元さんは、

言すべき世界経済フォーラム年次総会

だ」（ダボス会議）にも招かれた。

確かに、「オレについていい、というタ

イプの指導者は危険なおにいが

身の議員はする。市民が社会参加できる道

増えてい示す人が二十一世紀のリーダ

る。だ」と考える。

きようと辻元さんは、いま、「シロア

NPOセンリ作戦」を練っている。政治を

ター（京都変えるため、土台の地方自治から

変革しようというわけだ。知事選はNPOにとってもチャン

の深尾昌峰事務局長は、ス。コミットメント（関与）す

「身近な市の方角を目指すべきだ」

では全国二位の百四十九団体